

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第71号

発行日
平成30年3月1日

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|-----|---------------------|-----|-----------------------------|
| P 2 | 会員の集い・宮島 PV 自主研修会 | P 7 | ミヤジマトンボ生息地環境整備
野鳥観察会・地御前 |
| P 3 | 同上続き | P 8 | 同上続き |
| P 4 | 受賞者 喜びの声 | P 9 | 同上続き
幻のブータンシボリアゲハ |
| P 5 | 弥山登山道清掃作業
新春弥山登山 | | 編集後記 |
| P 6 | 同上続き | | |

舞楽 太平楽



正月に奉奏される「太平楽」
(写真・文 (P-2) : 中道 勉)

平成30年度 PV の会・定期総会を下記の要領で開催
しますので、会員の皆様、多数ご出席ください

日 時 4月7日(土) 9:30~12:00 (受付 9:00~)

場 所 杉之浦市民センター大研修室

※ 欠席の人は委任状を提出してください

※ 午後から入浜池補足調査および小なきり浜の
観察会・清掃活動を実施します

表紙写真「舞楽 太平楽」の説明

インドや中国、朝鮮半島から伝来した楽と舞を基とする日本の舞楽は、主に宮廷の公式な儀式や社寺の神事や法会で演じられ、後に公卿達の嗜み(たしなみ)ともなった。厳島神社に伝わったのは平清盛公が、神前に舞台を設け、御祭神をお慰めしたのが始まりである。

海に立つ大鳥居を背に奉奏される舞楽は、日本観光の象徴であるが正月に奉奏される「太(たい)平(へい)楽(らく)」は祭神に国家安泰を祈願する舞楽である。更に日本工芸の技(わざ)を集めて作られた装束の豪華さ、緻密さが際立つ演目である。

中道 勉

会員の集い・15年表彰・会員研修会・年末懇親会

日 時：12月2日(土) 9:30～17:00 天 候：晴れ 行事推進員：麻生
場 所：「会員の集い」、「15年表彰」、「会員研修会」は宮島西連集会所
「年末懇親会」は山村茶屋

1. 「会員の集い」

9:30～12:00 (受付9:15開始)

参加者：麻生 足立 岩崎 大西 小方ペア 小川
奥田 北野 黒木 小林ペア 佐渡 佐藤
島 末原 兎谷 中道 前田 舩田 村上
森 柳瀬 山本(昌) 横路 吉崎 呼坂
以上 27 名

環境省 関自然保護官 川原AR

(司会進行：岩崎副会長)

1) 関自然保護官あいさつ

・今年一年ここまで怪我なく活動ができました。あと1回の活動も安全第一で楽しみながらお願いします。

・PV2年更新の手続きを12月初旬に書類発送、1月中旬受付締切で実施します。

2) 村上会長あいさつ

私事の体調不良もV字回復。任期全うします。「無事故無違反」出来ています。コンプライアンスは、法律化していない規範が大切です。島に来られる方の手本になりましょう。来年の活動は「小さなイノベーション」で創意工夫をして欲しい。

3) 部会別会議

観察部会、環境整備部会、広報部会に分かれ、意見交換、打合せを行った。



(写真 全体会議開始)



(写真 観察部会)



柳瀬さん 最後の活動参加となりました

(写真 環境整備部会)

4) 全体会議

(1) 観察部会報告 (小林部会長)

- ・皆さんの参加でスムーズに進行した。
- ・年3回の公募観察会の広報のやり方に問題あり。参加者が集まる手段の工夫をしたい。

(2) 環境整備部会報告 (末原部会長)

- ・天候に恵まれてスムーズに活動できた。
- ・来年は今年と同じ活動内容。
- ・4月清掃登山として「陶晴賢碑」又は「三ツ丸子山」、9月頃にスカイ歩道の清掃活動を予定しています。
- ・自然公園クリーンデーを土曜日に実施。
- ・ミヤジマトンボ生息地保全整備は1月頃。

(3) 広報部会報告 (岩崎部会長)

『みせん』は来年度も4回発行予定。

- ・72号は新人紹介を記載します。
- ・75号は2020年6月3日の20周年行事のご意見を伺います。
- ・行事推進員の一言コメントを検討中です。
- ・SNS(facebookページ)での広報を研究します。

(4) 会長まとめ

コンプライアンスで一言：登山客の増加に応じ、弥山登山ルート選択のルールが改められました。その趣旨－自然保護と安全登山の確保－に沿って、これからも宮島の山歩きを楽しんで下さい。

2. 「パークボランティア感謝状伝達式」

小方夫妻様と舩田様の3名が15年表彰を頂きました。

受賞者の感謝の言葉と写真を4ページに掲載。

3. 広報部会主催の研修会 13:00～14:40

新規入会研修者 3名が加わった。

テーマ「自然と環境よもやま話」

講師 小方 嗣彬会員

自然って何だろう？で始まり、写真のスタイルで沢山の紹介をしていただきました。

・話のキーワードとして、野鳥の会、アイヌの人、中国新聞記事、高知県立牧野植物園、金子みすず、良寛の句、雑草、二十四節気、マツ、もみじ、どんぐり、生物多様性、ボランティアとは、などなど。



下の写真は、“フィボナッチ数”を松ぼっくりで説明されました。



生物学の事典によると、フィボナッチ数(数列)は、葉序の開度の法則性の説明に利用されているそうである。

4. 年末懇親会 15:30～16:40

21名が参加し、年末恒例紅葉谷公園「山村茶屋」での牡蠣バーベキューで、年忘れの懇親会。手際よく炭を熾し、熱々プリプリの牡蠣とおでん、あなご丼、うどん、ぜんざいと自前のビールや酒で舌鼓と談笑で盛り上がる。



(文・写真： 麻生博史)

15 年表彰受賞者の喜びの声

「心の宝」

小方 爲子

「来年は表彰だから頑張renaさい！」と、会長さん、幹事さんに励まされて…。さて、私に…。

PVに参加させて頂いた当初は50歳代の頃でまだ、何かできるかと思ったのがきっかけでした。他の会で教えていただいたちょっとの知識をもっと伸ばせたらとおこがましいことを考えたりして、ほんの少しだけお手伝いをさせて頂きましたが、伸ばすことなく年齢だけを重ねてまいりました。主人の助手席を暖め、グループの後ろをついて歩くだけでした。そんな中で、新春の岩船岳登山に参加したときのこと。厳島合戦のおり、陶晴賢は追い詰められて、高安ヶ原でわずか35才で自刃しました。「高安原陶晴賢敗死之所」と刻み込まれた碑が藪と雑木林に囲まれた地にあり、思わずそっと手を合わせさせてもらったことが、この厳島という島の奥深さと歴史の一端に触れさせて頂いたことです。帰路の栈橋まで、上り下りの道のりがとても長く感じたのも新しく知った驚きであり宝です。今もこれからもずっとです。ありがとうございました。

「パークボランティアに参加して」

小方 嗣彬

2期生として入会させて頂いたのですが、2期生だけは説明会の後すぐ登録されて入会という他の期とはまったく違ってとても優遇され13名が入会しました。同期の方は大活躍で会の発展のために貢献されましたが、残念ながら多くの方が退会されてしまいました。この間小生は在籍するのみでお役に立てなかったことをお詫び申し上げます。しかし、この会に在籍させて頂いたお陰で、2004.5.29～2005.6.4の海岸植物群落調査で宮島の周囲の海岸調査に参加し、井上さんの舟のお陰もあり、延べ74名もの参加もあって素晴らしい資料ができました。これが一番の思い出です。JPRの経験や生物多



様性、ラムサール条約など宮島に関する話題は豊富で、環境省やパークボランティアの皆さんからたくさんの知識を得ることができ、地域活性化に大いに役立たせていただいております。これからも進みゆく老化と戦いながら、みなさんにご迷惑をかけないように奮闘努力して参りますので見捨てないようよろしくお願い申し上げます。

「感謝ばかりです・・・」

舛田 祐子

環境省より「パークボランティア感謝状」をいただき大変光栄に思っています。お礼申し上げます。併せて、これをいただけたのも会員皆様のおかげと感謝をしています。

15年あつという間でした。改めて思い返してみると、ボランティア意識より宮島の自然に触れることを楽しみに入会しました。

人の後をついて歩き、活動を通じてご一緒した方々から色々教えていただいています。毎回新しい発見に、驚き、感動し、それを共有しながら話題が広がり、いつも笑顔でいることができます。少しずつボランティア意識も芽生え、幹事会の一員として助けていただきながら現在に至っています。たくさんの活動がありますが、その中で他団体との交流を目的とした研修旅行は、会員の親睦も含め宮島以外の活動を知ることができ有意義な時間を過ごすことができます。自然に接

しながら大らかな心をもらい人から豊かで暖かい心をもらっています。

多分、この会ほど素敵なメンバーが揃っているグループはないのではないのでしょうか。これからも「宮島パークボランティアの会」の一員として、微力ですが何か

お役に立てばと、思い新たに活動に参加したいと思っています。知らないことが沢山あります。一つでも多く体験、経験できればと欲張りながら・・・これからも皆様のご指導をよろしくお願いいたします。(写真：左から 舛田さん、小方嗣彬さん、小方為子さん 撮影：麻生会員)

弥山登山道清掃作業

日 時：12月15日（金） 9:00～15:30

天 候：晴 行事推進員：猪谷 佐藤

場 所：宮島ロープウェイ獅子岩駅～弥山山頂～仁王門～大聖院

参加者：足立 猪谷 岩崎 大林 小方(嗣)
川崎 北野 小林(勗) 小林(み) 佐渡
佐藤 末原 檜和田 前田 森 吉崎
以上 16 名

新規入会研修者 2 名

環境省 川原 AR

屋外での PV 行事のある日は 1 週間前から天気予報が気になります。今回は前後日が寒波の予報でしたが、なんと当日だけは晴。その予報通り気持ちのいい青空の広がる宮島栈橋前に集合しました。平日でやや少な目とはいえ寒さに負けず訪れる観光客に驚きました。「サニクリーン中国」の同行取材も受けながら、ロープウェイで獅子岩駅まで登り、記念撮影のあと、2 班に分かれて清掃を開始しました。



足立さん 最後の活動参加となりました

雪の中での作業だった昨年に比べれば少し楽な作業もありましたが、スコップ・鍬による側溝の泥上げ担当は、後に続く熊手・箒担当に追われる感じでかなり大変のようでした。

弥山頂上の休憩所周りで昼食の後、午後は、仁王門を通り大聖院まで下りながらの掃除でした。行き交う観光客の方々から「ご苦労さん」、「ありがとう」「きれいになって歩きやすいわ」と次々に言葉をかけてもらい、気力を取り戻して作業しました。効率よく作業をするため、リーダーの指示で先行班と後続班が適宜入れ替わりながら大聖院入口まで下

りました。今年は大聖院入口階段下を掃き清める時間がとれました。

大聖院下で、末原副会長と岩崎副会長のご挨拶があり、「良いお年を」の掛け声で解散しました。これで今年最後の行事も無事終了しました。



(文：川崎 昭壽 写真：末原 義秋)

新春弥山登山

日 時：1月6日(土) 9:00～14:30

天 候：晴れ 行事推進員：増田

場 所：紅葉谷～弥山展望台～大聖院

参加者：猪谷 岩崎 大西 小方(嗣) 北野 黒木
小林(勗) 佐渡 佐藤 末原 兎谷 中道
平田 前田 増田 松尾 村上 森 山本
(昌) 横路 以上20名

新規入会研修者 8 名

環境省 川原AR

今冬は、寒気が繰り返し流れ込み、新春登山の天候はやや危ぶまれていましたが、昨日気圧の谷が通過し、今日は晴れ、絶好の登山日和となりました。

9時、宮島栈橋2Fロビー集合。参加者29名。それぞれ新年互礼のあと、松の内で今日も賑あう栈橋を出立し、海岸通りから大鳥居を眺め、厳島神社を拝しながら紅葉谷登山口へ。

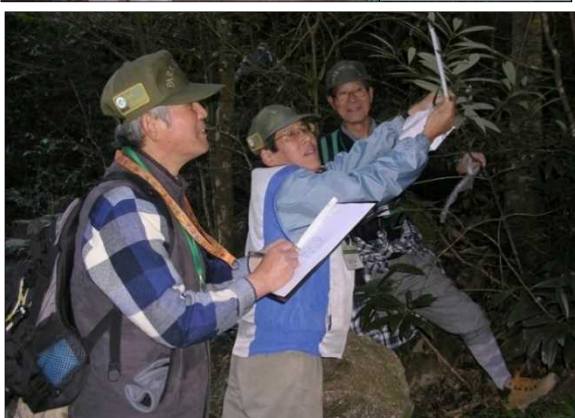
ここであらためて新年の挨拶と自己紹介。今年は、この4月ボランティア登録予定の研修生8名の参加もあり、例年より参加員数も多く、賑やかな、そして少し若返ったパーティーとなりました。

9時50分、紅葉谷登山口を出発。いつもの様

にヤブツパキ群落、岩海、天然橋を探勝しながら急坂を進みます。



観察休憩



ミミズバイ測定中の岩崎・小方・増田 会員

標高320~380mのミミズバイ自生限界です。南方系植物ミミズバイの自生限界を地球温暖化の指標として、例年その生育状況を定点観測しています。生育は順調のようです。残念なことに、標準木の1本の頂部が折れていました(折れたのか? 折られたのか?はよく分かりません)。測定データを文末に示します。



左手に瀬戸内の景観を眺めながら稜線を進むと、弘法大師修業ゆかりの関伽井堂です。その横にアカガシの大木が

あり、その幹のほら(洞)にトサムラサキが自生しています。トサムラサキは広島県では宮島だけに生育が確認されているといわれ、残念ながら今年の果実は疎らでした。

弥山本堂広場に着きました。ここでは、中道会員から主に研修生を対象に本堂・霊火堂・三鬼堂などの堂宇の歴史や謂れ、弥山七不思議の伝説等についてお話をいただきました。弥山本堂の横には錫杖の梅があります。

この紅梅は数年前には枯れかかっていたが、中道会員をリーダーとする有志の手当てにより勢いを取り戻しています。今年も元気に蕾をつけていて、4月には満開となるでしょう。鐘楼跡を過ぎると「くぐり岩」です。2001年の芸予地震では、不動岩やくぐり岩などの山頂の巨岩も動きました(どれくらい動いて、元の姿はどうだったかはもう思い出せませんが)。その後、「くぐり岩」の天井が少し動いているのではという噂を耳にしました。

そこで、この数年念のため新春登山時に簡易メジャーで天井高さを計っています。今年は190cmで昨年から変動はありませんでした。

12時丁度山頂到着。すばらしい眺望です。

山頂は登山客で賑わっていますが、例年に比べるとゆったりしています。登山客の弁当を狙う鹿は今日はいません。急降下し、タッチ・アンド・ゴーで弁当を狙う鳥は、樅の木の梢に休んでいます。大砂利沖の海原に自衛艦は見えません。岩国方面の飛行機音もあります。遠くに雪化粧した恐羅漢山が見えます。遥か南西の岩船岳が縦走を呼び掛けています。平穏な時空間です。今年もここ弥山山頂に立てたことに感謝です。あらためて健康であることの大切さを噛み締めました。



展望台前で記念写真

感謝の気持ちを込めて集合写真に納まりました。

昼食後、12時40分下山開始。各人の体力と思いに合わせて、大聖院道、大元道そしてロープウェイの3班に分かれて下山。14時過ぎそれぞれ登山口へ無事到着・解散。お疲れさまでした。

ミミズバイ測定記録 2018.1.6 岩崎義一				
名称	樹高 (cm)	周長 (cm)	場所	標高 (m)
大黒天	① ※ 126	3.9	大黒天上、左側	385
15号	② 93	4	15号堰堤上、右側	370
大岩下	③ 149	6.4	14号堰堤、右側	350
13号	④ 177	6.3	13号堰堤、右側	320
※ 上部を折られていた				

(文：村上 光春)

(集合写真：末原 その他の写真：前田)

ミヤジマトンボ生息地 環境整備作業

日 時：1 月 26 日(金) 9:30～15:00

天 候：晴れ

主 催：ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会
参加者：岩崎 小川 恩田 黒木 前田 森 吉崎
檜和田 以上8名

環境省 関自然保護官 川原AR

ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会

薄暗い雲に覆われた宮島に向けて塩屋港を出発しました。



薄暗い宮島

生息地 A 点にて、ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会の坂本会長より生息地と環境整備並びに水路整備の説明がありました。のち周囲の海岸清掃を行い生息地 B 点に歩いて移動しました。一昨年作られた水路は土囊の時と

異なり池並びに水路はしっかりとしており池の状態も比較的良かったが、水路を通りアオサが沢山流れ込んでいました。そのアオサを取り除く作業を、昼食を挟み 2 時ごろまで海岸清掃と併せ行いました。寒い日でしたが晴天で比較的風弱く、あまり苦勞せず作業を行うことが出来ました。

海岸のゴミ拾い作業を実施し 320kg のゴミを収集しました。



ゴミ収集仕分

(文：檜和田 正嗣 写真：吉崎 前田)



野鳥観察会 地御前



日時：2 月 3 日(土) 天候：曇り時雨後晴れ
潮汐：満潮 11:50(広島港)

行事推進員：大西 舩田

コース：地御前神社～周辺～港～調整池
～御手洗川河口

参加者：岩崎 大西 大林 小方ペア 小川 川崎
北野 小林ペア 佐藤 末原 兎谷 野呂田
檜和田 前田 舩田 村上 横路 吉崎 呼坂
以上 21 名 新規入会研修者 7 名

環境省 関自然保護官

青空が広がり穏やかな朝ですが手は冷たい。手袋をして双眼鏡・フィールドスコープの準備をします。地御前神社駐車場のイチヨウの梢に 6～7 羽休んでいる鳥は？双眼鏡で確認、くちばしと足は黄色。ムクドリです。神社林からヒヨドリの声もにぎやかに聞こえてきます。集合時間より早いですが、ひとりふたりと参加者が集まってきました。それぞれ思い思いに双眼鏡を覗き、早速観察を始めています。今回で 3 回目となる御手洗川周辺での探鳥会。リーダーは大西さん、サポートは新規

入会研修者で野鳥の会の穂井田さんです。

まず、潜るかカモ、潜らないカモの違いを、写真を見ながら足の位置、姿勢、採餌など説明がありました。アヒル、アイガモはマガモを飼育して家禽化され、更に改良されてきたそうです。カモ類はシベリア方面から渡ってきて9月の終わりから翌3月ごろまで日本で冬を越します。日本の渡り鳥で一番重いのはオオハクチョウ（カモ目カモ科）・・・など解説がありました。

神社周りでは、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツグミ、メジロ・・・、ウグイスの声も聞こえています。

スコープ3台、各自双眼鏡を持ち、宮島街道を渡り水辺へと向かいます。今日のメイン是水鳥、にぎやかに近づくと逃げて行ってしまいます。静かに観察しましょう。早速たくさんのカモがユラリユラリと波に浮かんでいます。朝食は済んだのでしょうか。逆光だとどれも同じように見えます。双眼鏡を覗いて一羽一羽見ていきます。ヒドリガモ、ヨシガモ、ホシハジロ・・・、筏の向こうにオオバンです。カワウは羽を広げた姿勢のままとまっています。カンムリカイツブリのカンムリが見たくてスコープでとらえようとぎこちない操作。潜ってしまうとハテ？どこに？レンズに入ったときは、うれしくて双眼鏡とは違うはっきりした姿に感動です。砂浜にイソシギ、シロチドリが忙しそうに餌を啄んでいます。白い首輪模様にかわいい瞳をしています。移動途中、空に黒い雲、ぽつぽつと小さな雨が降ってきました。えっ？予報にはなかったと思うけど・・・しばらく長い軒下を借りて横一列のボランティアアアマドリ。



雨も上がり、水のよどんだ調整池ではカルガモ、コガモを観察。大きな嘴をしたシメ、懸

命にスコープを向けて追いかけます。



シメ

静かにじっと水面を見つめている飛ぶ宝石と呼ばれるカワセミを、鮮やかな体色や鋭い嘴などゆっくり観察します。スコープの操作が少し上手になってきました。

御手洗川河口には、多くのカモがゆっくり右



カワセミ

へ左へと移動しています。中には顔を背中に埋めて休息しています。細長い尾をしたオナガガモ。ボサボサの頭のウミアイサ。嘴が幅広のハシビロガモ。すぐ近くにユリカモメが同じ方向を見て並んでいます。目の後ろにヘッドホンしたような黒い模様があります。それぞれの特徴や生態、光にあたって輝く色鮮やかな羽、かわいい瞳のことなど説明を聞きながら観察できました。参加してよかったと寒さも吹き飛びます。

そろそろ今日の鳥合わせです。リーダーによって予め用意し配布された表に従って観察結果を確認し合いました。計41種。

参加者のみなさんと和気藹々、同じものを観察し共有できる時間をリードして下さった

大西さん、穂井田さん、有難うございました。



ユリカモメ

(文：舩田 祐子 写真：北野 吉崎 前田)
(探鳥会の都度実施される、鳥合せの種名の記載順序等について、次号で、大西さんからお教えいただく予定です。編集担当)

公募観察会が近づきました 広大植物園路植物観察・室浜砲台跡

平成 30 年 3 月 24 日(土)
(下見は 3 月 17 日に行います)

幻のブータンシボリアゲハ

投稿 村上 光春

大元から室浜への沿岸道路・広島大学植物園路は、素晴らしい植物観察ルートです。この道路がぼちぼち終わる辺りに、多年生つる植物のウマノスズカケ 1 株があります。ウマノスズカケはジャコウアゲハの食草として知られています。ここでは、アゲハの連想からブータンシボリアゲハがよく話題になります。

昨秋 11 月、広島県立美術館でしあわせの王国・ブータン展覧会が開かれ、日本で二つしかない幻の大蝶・ブータンシボリアゲハの標本が特別公開されることとなりました。

せっかくの機会ですので、混雑時を避けてじっくり見ようと、会期中頃、週日の朝早くに会場へ行きました。が、目指す標本は見当たりませんでした。係の方にお尋ねしたところ、展示は期間限定で、開会后 1 週間のみだったとのこと。幻の標本でした。(案内リーフレットにはそのことがキチンと書かれていました・・・まさにうっかりさんでした)

話は変わって、会場に漂うゆったりとした時空間は、展覧会副題の「しあわせに生きるためのヒント」そのもののようでした。その記憶を長く留めようと、民俗品・ブータン手織コットンストールを購入しました。

訃報

会員 足立 清 様は、平成 30 年 1 月 27 日急逝されました。

享年 82 歳。

同氏は平成 12 年 4 月、1 期生として当会に入会されました。

以来広報部会長、副会長、会長代行、監査員を歴任され、本会発展の礎を築かれました。

また、機関誌「みせん」の創刊と定期刊行には、格別の情熱を注がれました。

ご冥福をお祈り致します。合掌

会長 村上光春

訃報

会員 柳瀬 佳史 様は、入院加療中でしたが、平成 30 年 2 月 26 日逝去されました。

享年 82 歳。

同氏は平成 12 年 4 月、1 期生として当会に入会されました。

以来、環境整備部会員として、宮島の美化活動を率先垂範されました。

中でも、弥山登山道に合わせて工夫された、「清掃 7 つ道具」はいつまでも会員の記憶に残ることでしょう。

ご冥福をお祈り致します。合掌

会長 村上光春

◇ 編 集 後 記 ◇

今号期最後の行事、「野鳥観察会・地御前」には、総会、会員の集いに次いで多くの方々が参加されました。次号期は春の活動予定が賑やかに並んでいます。(前田)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455